

研究タイトル:

アリストテレスの問答法に関する研究



氏名:	高橋祥吾 / TAKAHASHI Shogo	E-mail:	s-takahashi@tokuyama.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(文学)
所属学会・協会:	日本哲学会, 日本西洋古典学会, 広島哲学会		
キーワード:	哲学, 哲学史, 倫理学, アリストテレス		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・アリストテレスの哲学(論理学、学問論)に関する公開講座および研究協力 ・古典語(ギリシア語、ラテン語)で書かれた資料読解のための支援 ・倫理学・応用倫理学に関する公開講座 		

研究内容: アリストテレスの問答法の理論とその発展的解釈の研究

この研究の目的は、アリストテレスの問答法の理論が変化・発展していることを明らかにし、その理論を明確にすることです。従来、アリストテレスの問答法の理論は『トポス論』の中で論じられていると考えられていましたが、『トポス論』における問答法の理論には不備が含まれていると考えられます。その一方で、『弁論術』では『トポス論』とは異なるトポスについての説明が行われているのです。そこで私は、『トポス論』から『弁論術』にかけて、問答法の理論が修正され、新しく理論化されたのではないかと推測しました。そのようなわけで、この研究では、『トポス論』から『弁論術』にかけてアリストテレスが問答法を発展させたという発展史的な解釈を提示、実証し、その新しい問答法の理論を明らかにすることを試みます。

この研究の特色は、問答法の理論や特徴を『弁論術』に求めるところです。これまでの研究では、『トポス論』だけが問答法の理論を論じたものと考えられていました。しかし、この研究の内容が実証されるなら、問答法の理論はこれまでとはまったく違った見方がされると思います。

また、アリストテレスにとって弁論術は、倫理学や政治学と関係付けられたものです。弁論術の推論は、相手を説得するために有効な推論です。したがって、弁論術に対応する問答法の推論も、自分自身を説得し、倫理的な事柄を実行する動機を与える実践的推論として捉えなおすことができるのではないかと考えています。アリストテレスの実践的推論は、これまで三段論法の形で考えられてきたのですが、問答法の推論として捉えなおしたいと考えています。

また、アリストテレスの倫理学理論は、卓越主義として正義論の文脈で論じられたり、現代の徳倫理に取り入れられたりすることも多いです。この研究をさらに進めることで、実践的推論の理論として、現代に応用できないかとも考えています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)